

令和6年度 いのちの授業 事例集（幼稚園こども園）【健康】

地区	学年	教科等	テーマ	内 容	参考事項（講師・教材等）
1 相模原市	幼複合	健康	プライベートゾーンについて	人の体には、他人が見たり、触ったりしてはいけない部分があるという話を人型パネル等を使って、体のどの場所であるのかを伝えた。また、プライベートゾーンを他人が触ろうとしたときは嫌であることをしっかり伝えること、自分の体だけではなく、友達のことでも考えて行動することも必要であることを教えてもらった。その後園児からは、「いやだ」と言われたら止めなくてはならないということや、男の子、女の子で違いがあるといった話が聞かれるようになった。	講師 看護師 子ども達に親しみやすいようパネルを使用し て説明を行う
2 中	年少	健康	バランスよい食事を心がけ、丈夫な体を作ろう	市の親子健康担当の方が子ども達に、「早寝・早起き・朝ごはん」についての食育講話をしてくださった。赤・黄・緑の3色の食べ物について聞き、それぞれにバランスよく食事をとることで健康になり、丈夫な体になるということを教えてもらった。弁当時に意識して教師が話題にしていくと、子ども達は残さず食べようとする気持ちがでてきた。保護者もバランスよい献立を意識してくださる家庭が増えた。「早寝・早起き・朝ごはん」をキャッチコピーにして、家庭でも取り組んでもらうようにしている。	
3 中	年少	健康	近隣の火事	入園当初は、避難訓練というと怖がったり泣いたりする子もいたが、毎月いろいろな想定で訓練を行っていくことで、園児もどう自分の身を守るか理解はしてきている。 ある日、園の近くで黒煙が上がっており、「火事だ!」と子ども達が教師に伝えてきた。そこまで近くなかったので、様子を見ていたら、自然とハンカチや服の袖で口元をおさえ、自分の身を守ろうとする姿が見られた。 保育室に戻ってからも、「さっき煙が出ていたね。」「大丈夫かな。」「消防車の音がしたから消防士が消してくれるよ。」などと、火事の話をしていた。災害が起きた時の合言葉をイラストを見ながら確認したところ、煙が上にあがることや、煙を吸わないように姿勢を低くして口元をおさえることなど、子ども達と避難方法について再確認することができた。子ども達も黒煙を自分の目で見たことで、自分事として捉えることができ、身を守る方法や命は1つしかないことを改めて確認できる機会になった。	

4	中	年中	健康	みんなで食べたい！	1学期、夏野菜を育てていた時は、担任が声をかけると数人の子どもたちが育っている様子を見に来る姿があった。実際に収穫を行ったり調理方法を変えながらみんなで食べたりする機会を作ったところ「トマト嫌いだけど食べてみる！」「ピーマン食べられるようになった！」といった声が聞かれた。家庭でも園で食べた調理法で作ってもらったと報告する姿や苦手だった野菜にも挑戦する姿があった。 2学期冬野菜の栽培では種をじっくり見たり、芽が出はじめると「どれがにんじん？」「みんな！お水あげないと！」と声をかけあっている。「ぜったいみんなで食べたい！」「みそ汁がいいかな」など食べる事への関心が高まった様子がよく見られるようになった。 食への関心が高まったことで作物を育てることへの興味や大切にしたい思いを持つことへ繋がった。	
5	中	幼複合	健康	避難訓練(地震)	保育時間中に地震発生。「地震です。」の放送が聞こえると室内の子どもは机の下にもぐり、園庭にいた子どもは教師のそばに集まり安全を確保した。シェイクアウトの姿勢『ダンゴムシのポーズ』で揺れが収まるまでの体勢を保っていた。各クラス、机の下にもぐる、体を丸めて頭を守る、などの姿勢から、揺れのおさまりの放送が入ると、室内にいた子は防災クッションを被って園庭に避難し、全員集合する。点呼後、基本的な部分の説明「おかしもの約束」「シェイクアウト」について再確認をして、自分の身を守ることをイメージできるようにした。今回は職員にも予告なし、子どもたちにも事前の知らせをしないで行ったが、皆、落ち行いて行動をする姿が見られた。	絵カード
6	県西	年中	健康	避難訓練(地震)	園では毎月避難訓練を実施しているが、事前に園児に告知をしてから訓練をすることが多い。実際の地震は不意に来ることから、今回は実施時間帯のみを設定し、園児には知らせず、担任もいつ訓練開始になるかわからないという設定で、訓練を行った。園児は、教頭による「地震です」の声を聞きとれず、二回目の声かけで地震の声かけに気づいた。一瞬驚いた様子だったが、遊んでいた場にすぐにしゃがんで頭を押え、身を守る行動をとっていた。園長の二次避難の声かけと共に、全員が冷静に避難することができた。訓練を重ねる中で、避難の仕方や「おかしもち」の約束を守り、自分の身を守ることの大切さを学んでいた。	
7	県西	年少	健康	チューリップの水やり	今年も年少児がチューリップの球根を植えた。外遊びに出てくるとまずは最初にチューリップに水やりを行うのが日課となっている。芽が出てきたときには喜び、報告に来ることもある。ある日、園庭にカラスが3羽いて、チューリップの鉢に近付いているのが見えた。昨年もチューリップの球根を食べられてしまうことがあったので、子どもたちと相談をし、ネットをかけチューリップを守ることにした。話し合いの中で、「何でカラスたちはチューリップの球根を食べるのかな？」「チューリップ、美味しいのかな？」と、不思議がる姿が見られた。「きっと、カラスさんたち、食べるものが少なくて、チューリップの球根が美味しそうに見えたのかもね。」と言うと、「カラスさんたちもお腹が減ってるんだね。可哀そうだね。」という声が返ってきた。	

8	県西	年中	健康	地震火災訓練を通して知る命の 守り方	毎月避難訓練を実施し、子どもたちは災害時の身の守り方を自分でも実践できるようになってきた。そこで、事前に予告せず、突発での訓練を実施した。地震発生の場合を聞き、すばやく机の下に潜り、体を小さくしてじっとすることができた。二次避難時には、火災発生のお知らせもあり、ハンカチで口と鼻を抑えて避難した。避難が完了すると、「怖かった。」という幼児が多かった。突発の訓練では緊張感が生まれ、幼児の参加する姿も真剣であった。真剣に取り組む姿勢、気持ちこそがいざという時に自分の命を守る術となると考えた。	
9	県西	年長	健康	苦手な食べ物に 挑戦！	ある日の弁当の時間、いつも母親が好きな物を詰めてくれるAの弁当箱に、ブロッコリーが一つ入っていた。食べる前から「嫌いだから残したい。」と言っていたAに、隣の席のBが「ブロッコリーおいしいよ。栄養がたくさん入ってるってママが言ってたよ。」と伝えた。Aは「へーじゃあ食べてみようかな。」と一口かじり取った。教師が「えらいね！ブロッコリーは病気に負けない体を作る力があるんだよ。」と声をかけると、嬉しそうにはにかみ、すべて食べることができた。Aの「明日もブロッコリー入れてって言おう！」という言葉から、苦手な物を食べられた嬉しさと、食べ物が元気な体をつくることを感じたことが伝わった。	
10	県西	年長	健康	生まれてきてく れて	年長組の誕生会では、保護者にも参加をしてもらい、お腹の中にいるときや生まれた時の話などを聞いており、11月の誕生会でも、兄や姉が、自分が生まれてくることを楽しみにしていた様子や、無事に生まれるか心配な気持ち、生まれてくる子の顔を見ることを心待ちにする気持ちが、時々涙をこらえながら語られた。誕生日を迎える子は、自分が生まれてくる時の話を嬉しそうに、興味をもって聞いていた。出生時が乳児期の写真を見ると、友だちからも「ちいさい！かわいいね」「これ〇〇ちゃん？」と声が上がリ、友だちの成長を感じる様子があった。このように、誕生会では自分が愛されて生まれてきたことや、これまでの成長、友だちの成長を感じる機会となっていた。	
11	県西	年長	健康	「野菜への 思い」	地域の方の畑で大根掘りをさせていただくことになった。大根掘りの前に説明があり、種をまく前に畑にはたっぷりの肥料を混ぜ、深く畝を作ることが大切であるという話を聞いた。「どうして深くしないといけないの？」と質問をすると、「まっすぐに長く太い大根に育ってほしいからね。種を蒔き芽が出て、根っこが土の中にどんどん突き進んで長い大根になるんだよ。それにはたっぷりの栄養がないといけから、肥料をたくさんあげるんだよ。おじさんの子どもみたいに、大事に育てているんだよ。」という話を聞いた。大根掘りを始めると、「どれにしようかな？これが大きそう！」「途中で折れないように、空に向かって真っすぐ抜くんだよね。」と確認しながら1本1本大根を丁寧に掘っていく様子見られた。	地域ボランティア の協力

12	県西	年中	健康	避難訓練を通して命を守る学び	年間を通して避難訓練を体験している。11月は憧夢で発表会の練習をしている時にベルが鳴った。「何？」「地震？」「地震なら机の下に隠れないと。でも机がないよ」「どうしよう」と慌てる姿があった。「地震なのかな？落ち着いて放送を聞いてみよう」「放送が聞こえない」「静かにして」と教師や友達が声をかけたことで落ち着きを取り戻した。「職員室から火事だ」と何が起きたのかを理解すると、「ハンカチで口を隠すんだよ」「煙を吸ったらだめだよ」と命を守るためにはどうしたらいいのか、今までの経験で学んだことを伝え合い実践していた。また、ハンカチのない子どもは袖を口に当てるなど、自分で考え行動していた。 憧夢からの避難は初めての経験だったことで、逃げ道に「どこだ？」と戸惑っていたが、「1番外に近いドアはどこにあるかな？」と声をかけると「あそこだ」「テラスの所から逃げよう」と声を掛け合い、避難することができた。 訓練終了後に振り返りを行うと、保育室や戸外以外の場所で火事や地震が起きた時の避難の仕方・「おはしもち」の約束を自分たちの言葉で話すことができた。また、紙芝居を通して火事の怖さを学んだ。	・教師は子どもの姿を見守り、必要に応じて声を掛け、気づかせるようにしていった。 ・避難訓練後に子ども達と振り返りを行い、気が付いたことを伝え合う場を設けたり、紙芝居や絵カードを使って火事の怖さや自分の命を守るための行動を学べるようにしたりしてきた。
13	県西	年少	健康	栽培物が大きくなってきたよ！	冬野菜のブロッコリーの苗を植えた。子どもたちは夏野菜の経験もあるので、水やりをした方がよいことはわかっていた。すると、遊んでいるときに「先生、水やりする」と進んで水やりをして、野菜の苗が大きくなるようにお世話をし始めた。しばらく水やりを続けていくと、苗が大きくなってきていることに気づき、「大きくなってきたね、水やりしているからだね」と子どもたちから伝えてきた。登園時にも気にかけて、様子を見に行く子がいた。すると「先生、青虫がいる！」と気づく。葉に蝶が卵を産んだようだ。子どもたちが「青虫を取らないと大きくなれないよ」と話しながら、青虫とりが始まった。世話を続けながら大きくなったブロッコリーをみんなで収穫していく。ブロッコリーが苦手な子も「自分たちで育てたんだよ」と教師や友だちから声をかけられることで、食べてみようかなという気持ちを持ち、少しだけだが食べることができた。自分たちで育てていき、野菜の成長や青虫の姿に気づくなど、自分たちの目で見えて感じるすることができた。今後も自分たちで野菜を育てながら、様々な発見をしたり気づいたりすると思うので、共感しながら生活をしていきたいと感じた。	